

事務事業 No./名称	■サービス部門 教育-27 教育支援事業 □支援部門						
主管課	教育指導課	関連課					
分野名	学校教育						
目標 (目標値)	学校教育の充実に向け支援を行います						
人口等のデータ	データ区分	24年度	23年度	22年度	備考		
	人口	177,224人	177,204人	177,161人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	世帯数	79,669世帯	79,217世帯	78,812世帯			
	事業の対象者数	11,391人	11,301人	11,144人			
運営資源状況	決算値(千円)	136,585	126,989	130,216			
	(国・県)			70			
	(負担金等)						
	(一般財源)	136,585	126,989	130,146			
	人員配置数	3.9	3.4	3.5			
	人件費(千円)	31,938	31,234	33,234			
	協働のパートナー						
事務事業運営経費	総事業費(千円)	168,523	158,223	163,450			
	市民1人当りの経費(円)	951	893	923			
	対象者1人当りの経費(円)	14,794	14,001	14,668			
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名⇒	鎌倉市	逗子市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	
	特別支援学級設置校数(小)	8/16	5/5	16/35	7/19	28/28	
	特別支援学級設置校数(中)	5/9	3/3	11/19	5/13	15/15	
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(27年度)
スクールアシスタントの小学校全校配置	○	目標値	8校	8校	10校	9校	10校
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		実績値	8校	8校	8校	9校	

評価のポイント

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

小事業名	H24決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止	
教育支援事業	136,585千円	①効率性 ○	②妥当性 ○	③有効性 ○	④公平性 ○	⇒ ■A □B □C □D □E
	事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 外国人英語講師、学級補助員、スクールアシスタントの配置 学級補助員、巡回相談員、日本語指導力者、英語活動サポーターの派遣 小学校に学校図書館専門員の配置、中学校に読書活動推進員の派遣 総合的な学習の時間等の実践 防犯ブザーの配付 少人数学級の実施 特別支援学級の整備 				
	事業の概要	①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要	①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
事業の概要	①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E	
事業の概要	①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E	

事務事業の課題及び取組状況

H24年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 特別な支援を必要とする児童生徒への人的支援にかかる継続的な予算の確保。 特別支援学級設置にあたっての、就学希望状況の把握と転用教室の確保。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 学級支援員の謝礼単価を見直し、派遣時間数を確保した。 就学相談や教育相談を通じ、長期的な展望を見据えて、適切な助言をすることで就学希望校の把握に努めた。 	取組の結果	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題	<ul style="list-style-type: none"> 特別な支援を必要とする児童生徒への人的支援にかかる継続的な予算の確保。 特別支援学級設置にあたっての、就学希望状況の把握と特別支援学級への転用教室確保。特に、未就学児童が特別支援学級を希望する場合に、就学希望校の把握。 		

中事業の評価と今後の方向性

中事業の評価	適切=○ 要改善=△ (評価の視点を参照)	①効率性 ○	今後の方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止	※□事業完了	
		②妥当性 ○			↓	課長等名
		③有効性 ○			A	教育指導課長
		④公平性 ○				川合良宏

(2面) 個別事業の評価

(単位:千円)

小事業名	ザイムスコード	個別事業名	24年度予算	24年度決算値	評価⇒適切=○、要改善=△(1面の評価の視点を参照)			
					①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性
教育支援事業	主な個別事業	1125 学級介助員報酬	26,770	26,542	○	○	○	○
		1126 スクールアシスタント報酬	10,811	10,775	○	○	○	○
		1126 特別支援教育巡回相談員報酬	6,468	6,468	○	○	○	○
		1125 特別支援学級補助員報酬	6,276	6,276	○	○	○	○
		1125 理学療法士報酬	5,880	5,880	○	○	○	○
		1126 学校図書館専門員報酬	16,589	16,474	○	○	○	○
		1125 読書活動推進員報酬	2,851	2,851	○	○	○	○
		1125 外国人英語講師報酬	15,785	14,869	○	○	○	○
		1126 小学校非常勤講師報酬	23,247	17,253	○	○	○	○
		1128 学級支援員等協力者等謝礼	12,400	12,093	○	○	○	○
		1125 学校教育問題対策委員謝礼	100	75	○	○	○	○
		1125・1126 非常勤嘱託員等費用弁償	8,142	6,385	○	○	○	○
		1126 消耗品費(防犯ブザー)	703	698	○	○	△	○
		1125・1126 特別支援学級(第一小・西鎌倉小・第二中)初度調弁消耗品	1,000	1,100	○	○	○	○
1125 子ども鎌倉彫制作指導業務委託料	400	396	○	△	△	△		
1125 総合的な学習の時間等実践交付金	2,000	1,999	○	○	○	○		
	主な個別事業							
	主な個別事業							
	主な個別事業							
	主な個別事業							